

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第244号 2015年4月4日

OCHADAI GAZETTE April, 2015



希望に満ちた未来の創造へ

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ…………… 1-2
新入生の皆様へ

平成26年度卒業式 …………… 3-4
学長告辞

学生のアクティビティ…………… 5-6

教員紹介…………… 7
● 佐藤 瑤子先生
(人間文化創成科学研究科自然応用科学系)

卒業生紹介 …………… 8
● 高畑 侑紀さん
(理学部情報科学科卒業)

附属学校園からのお知らせ…………… 9-10

キャンパス点描…………… 11-12

● 女性研究者研究活動支援事業(連携型)平成26年度キックオフ・シンポジウムを開催しました
～お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構の3機関が協力して、日本の「工学系女性研究者比率の向上」にチャレンジ!～

● 「OGと在校生との交流会 -face-to-faceで語ろう-」を開催しました

● 平成26年度学生表彰式を開催しました

● お茶の水女子大学理科教育復興支援 研修・意見交換会を開催しました

メディア報道記録/研究表彰等受賞者一覧/… 13-14
イベントカレンダー



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

新生の皆様へ

新生の皆様

ご入学おめでとうございます
お茶の水女子大学へようこそ



女性のための日本初の高等教育機関「東京女子師範学校」として1875年に設立された本学は、今年、創立140周年という記念すべき年を迎えます。創設後、「女子高等師範学校」、「東京女子高等師範学校」の時代を経て、74年にわたって優れた女性教員を育成し、わが国の女子教育を先導して来ました。その後、第二次世界大戦後の1949年（昭和24年）に、新制大学「お茶の水女子大学」となり、女性のための総合大学としての歩みを開始して、今に至っています。

本学から巣立った数多くの卒業生は、女性の社会的活動が制限されていた時代にあっても、学びへの強い意欲を持って、社会のために役立ちたいと、努力を重ねてきました。そして、様々な分野で実績を挙げてきた卒業生の想いが、後に続く女性たちのために道を切り拓き、活躍の機会と場を大きく広げてきたのです。現在、本学は、これまでに築かれた歴史と伝統を基盤として、わが国と世界の未来を担うことのできる広い視野と豊かな感性をもった女性の育成に取り組んでおり、卒業生たちは、学術・研究、教育、産業、行政、報道など、多様な分野で伸び伸びと活躍しています。

2004年に国立大学が法人化されましたが、その際に本学は、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援したいとの意思を持って『学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』との標語を掲げました。そして、本学で学ぶ学生達が、多様な文化と異なる価値観や考え方をを持った人々と深く理解しあい、互いに切磋琢磨しながら、自らを成長させていくことができるよう、グローバルな視点からの教育と研究を推進しています。

お茶の水女子大学で行われている研究と教育は、人間の在り方やそれを支える社会制度、生命の営みとその仕組み、自然現象と物質の成り立ち、人間生活を支え健康と幸福を維持するための科学・技術や芸術など、多岐にわたっています。本学の教職員は、それらの教育・研究の絶え間ない向上を目指しつつ、学生達が広い知識と豊かな想像力を備え、将来、日本と世界の希望に満ちた未来を創造する人材となって欲しいと願って、日々研鑽を積んでいます。

お茶の水女子大学は、140年の歴史を持つ高等教育機関として、学生達が社会の中で何をすべきかを知るための「学びの場」を提供し、未来への希望と勇気を呼び起こすことのできる活力ある女性の育成のために、将来にわたって努力して参ります。

2015年4月

国立大学法人 お茶の水女子大学長 室伏 きみ子

学長からのメッセージ
新入生の皆様へ

平成 26 年度卒業式

学長告辞



卒業される皆様、ご卒業おめでとうございます。
ご家族、ご関係の皆様にご挨拶申し上げます。
また、ご臨席いただいております本学経営協議会委員、
学外理事、監事の皆様、卒業生の会桜蔭会の会長、役員、
名誉学友の皆様をはじめ、ご来賓の皆様にご挨拶申し上げます。

今日ご卒業の皆様のご入学式は、4年前、2011年3月の東日本大震災の直後に行われました。この年、多くの大学で入学式が取り止めになり、余震も予想される状況ではありましたが、考えられる限りの対策を講じながら学内の者だけで簡素に入学式を行いました。その時のことを思い起こしますと、ご家族や多くのご来賓にもお出でいただき、このように晴れやかに卒業式ができますことは、有難く幸せに思います。

その後、大学として被災地への支援を続けてきましたが、あの震災を通して私たちは多くのことを学びました。自然の力の猛威に晒されて、日常生活がいかに脆く危ういものであるか、昨日が今日に続き、さらに明日へと続いてゆくことや、一日一日を生きることがどれほど貴重、いかに大切であるかも改めて認識させられました。

そしてさらに、科学の発展と技術の進歩は、私たちの生活を豊かで便利なものとするという輝かしい光の面と同時に、影を伴うことも痛感させられました。

近代の科学は、人間が自然と対峙し、それを制御しようと試み、あるいは自然に代わる手段を人の手で開発することによって著しい発展を成し遂げてきました。この発展をとどまらせるのではなく、さらに持続させることは私たちの使命でもあります。ですが、同時に私たちは技術の進歩

が光とともに、影を伴うことを意識しておくことが大切です。
次のようにいわれることがあります。

「技術は単に手段であって、それ自体は善でも悪でもない。重要なのは、人間が技術から何を創り出すのか、何の目的で人間は技術を用いるのか、…である。技術に支配されるのではなく、技術を支配する人間とはどのような人間であるのか、…が問題である。」(K. ヤスパース、『歴史の根源と目標』)

科学や技術が全てを解決すると無条件に信じるのではなく、またそれを否定するのでもなく、いかにして科学技術を進歩させ、同時にそれを利用して人間生活を豊かなものとするかが今強く問われています。そのカギとなるのが人間性の問題だといえます。単に特定の専門的な知識を身に付けるだけではなく、自然や社会や世界を俯瞰できる力が必要なのだと思います。

近代科学の祖ともいわれるデカルトは学問を一本の木にたとえました。そして学問を、実学的学問、基幹的学問、形而上学に分けて考えました。

医学や技術は木の実に喩えられます。木の幹に当たるのが自然の原理を扱う学問です。

美味しい木の実を手に入れるための実用的な学問は、身近な目的を達成するのに役立ちますが、木の実は、当然のことながら、花が実となって熟したものです。そして、花は枝につぼみをつけ、枝は幹から伸びているのであり、幹は土の中の根に支えられています。私たちは美しい花や、美味しい木の実に注目しがちですが、そこに至るまでに多くの時間が必要なのであり、また、地中であって木を支え、養分を吸収する根があつて初めて一本の木は実を結ぶに至るのであり、この全体の姿を忘れてはならないように思います。

ものごとの根幹、つまり根や幹を含めた全体を見通すことができるか、それは、一人ひとりもっている知識の質によるのではないかと思います。

本学では、4年前に新たな教育プログラムを開始しました。複数プログラム選択履修制度です。このプログラムは、主体的に学ぶ力のある本学の学生が、学問をできるだけ広く、深く学べるようにと設計したプログラムです。このプログラムでは、広い教養と深い専門性、という以上に、「深い」教養と「広い」専門性を身に付けることを期待しています。そして今日ご卒業の皆様がこのプログラムで学んだ最初





の学生です。皆様が学ばれたその成果は、おそらく何年かを経てから現れるに違いありません。

実は3年前に大学の正門脇にりんごの木を二本植えました。この木もまだ実をつけていませんが確実に成長しています。この木にりんごの実がなる頃、皆様もそれぞれに社会的な役割を担っていることと思います。そして、この大学で学んだことをこれからの社会生活の中で活かされることを楽しみにしています。

今とくに女性の社会的な活躍が求められています。2020年までに意思決定過程に関与する女性の割合を30%にするという数値目標も設定されていますが、それは単に社会に参画している女性の数を増やすことだけに意味があるのではないと私は理解しています。そうではなく、これまでになかった新しい視点を提供すること、新しい考え方をそれぞれの立場で示すこと、それによって社会の発展の新しい姿を創造しようとするに意味があるのだと思います。

そのために、お茶の水女子大学は国立の女子大学として、リーダーシップを発揮できる女性の教育を使命としてきました。私たちが考えてきたリーダーシップ教育は、強い権力を行使して、人を束ね導く人というより、その場を担い、責任をもって組織を動かすことができる人を育てることです。

そこで、教育の理念として三つを掲げました。知識、見識、寛容です。確かな「知識」を基盤として、適切に判断することのできる能力を「見識」と表現しました。事柄は見方によって多様であり、そのことを心して判断する力が必要だと考えています。それと同時に、他の在り方や他者を尊重する「寛容さ」を教育理念の一つとしてきました。この三つの要素が整って初めて「知は力」となるのだと思います。

また、「共に在る」という表現でもキャンパスにいくつかの空間を創りました。

4年前に新しい学生寮、お茶大SCC(Students Community Commons)を開設しました。この学生寮は「共に住まい、共に学び、共に成長する」というコンセプトで設計し、教育寮として機能しています。新寮に入寮して二年間をそこで過ごした第一期生が今年本学を卒業します。

このお茶大SCCの先駆けとなったのは、「共に学び、共に成長する」をコンセプトとした本学の附属図書館のLearning Commonsですが、これは他の国立大学のモデルとなり、その後、学生、職員、教員によって育てられてきています。今では、「共に在ること」を理念とした空間は4か所になりました。

多様な主張が対立する世界的な状況の中で、皆様はこれから国内外を問わず、活躍することが求められることと思います。多様な価値観が交わり、時に対立する状況に身を置き、そこで自らの立場を見出すには非常な困難が伴うことが予想されます。その時に、「共に在ること」を理念とするこの大学で、「知識」を修得し、「見識」を高める素地を身につけたことをどうか自信にかけてください。今皆様にお渡しした卒業証書は、皆様が困難な状況の中にあっても克服するための力を修得したことの証しです。また、本学の140年の歴史を通して、多くの卒業生が既に社会のさまざまな場面で活躍していることも、きっと皆様に勇気を与えてくれることと思います。

今日卒業する皆様がこの学び舎から向かう新たな世界は、皆様の活躍を大いに期待しているに違いありません。この大学で学んだ知識を活かし、さらに研鑽を積んでそれぞれの力を発揮されることを心から願っています。そして社会の期待に応えていただければ嬉しく思います。

私もこの3月で卒業します。この大学で学生として学び、教員として学生と共に過ごし、研究にも従事し、最後の6年間を学長として過ごしました。皆様とともに卒業できることは喜ばしく、これからは本学の卒業生として社会に少しでも貢献できれば幸せです。

そして何より皆様にはこれからの時代をリードして、未来を担っていただきたいと心から期待しています。

改めてご卒業をお祝いし、皆様一人ひとりの未来が輝かしいものとなりますことを願い、告辞とします。

本日はまことにおめでとうございます。



平成 26 年 3 月 23 日

お茶の水女子大学長

羽入 佐和子

平成 26 年度卒業式
学長告辞

学生のアクティビティ



お茶の水女子大学には公認課外活動団体が46団体(文化系29団体、体育系17団体)あり、それぞれ活発に活動しています。また、その他にも多くのサークルなどがあります。

今回はGAZETTEの表紙を素敵な写真で飾ってくれる写真部の皆さんにお話を聞いてきました。

お茶大：写真部

Ochadai Photograph

○現在の部員数は??

12月に3年生が引退されたので、現在は11人で活動しています。

○どんな活動を??

週に1回はお昼ご飯を一緒に食べながら写真のことに限らず、いろんな話をしています。

6月~7月に新人展と11月の微音祭で展示会を開催したり、夏と冬の長期休みには撮影合宿を行っていて、長崎や鎌倉などみんなで相談しながら場所を決めています。中にはコンテストに応募している部員もいます。今後の

目標としては、月に1回くらい東京近郊で撮影会ができればいいなと思っています。

○写真部に入ってよかったことは??

- ・いろんな人の写真を見ることができるのですごく楽しいです。
- ・旅行に行ったり物を見たときに、どのように人に伝えられるかを考えたり、ものの見方が変わりました。
- ・プロカメラマンの方がコーチとして教えてくださっていて、展示会の講評などがとても参考になります。

○新入生の皆さんへ一言

カメラに触れたことがない人も、経験者も、カメラを持っていてもいなくても、みんな大歓迎です。部の雰囲気はとてもよく、和気あいあいとしています。

新入生の皆さんに学校紹介をしながらお茶大のキャンパスを撮影する「お茶大を撮ろうツアー」を4月に開催する予定です。みなさんのご参加をお待ちしています。





Photo Club

写真部の年間スケジュール

- 4月 : 新入生向け「お茶大を撮ろうツアー」(2~3回開催予定)
- 6-7月 : 新人展
- 8-9月 : 夏季合宿
- 11月 : 徽音祭展示
- 2-3月 : 冬季合宿

今回お話を聞いたみなさん

- 圓谷栞理さん (文教育学部言語文化学科2年生)
- 孫田佳奈さん (理学部生物学科2年生)
- 竹内麻理子さん (文教育学部言語文化学科2年生)
- 村田美七海さん (文教育学部人文科学科1年生)



<その他の公認団体> 漫画研究会・箏曲部・白ばら会合唱団・劇工舎プリズム・囲碁部
 ・ミュージカルカンパニー MMG・百人一首同好会 ・国際インターシップサポートサークル
 ・モダンダンス部・民族舞踊研究会・LBJ スキーチーム

学生のアクティビティ

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科自然応用科学系の佐藤瑤子先生をご紹介します。佐藤先生は、大学院ではライフサイエンス専攻食品栄養科学コース、また学部では生活科学部食物栄養学科ご所属です。



Sato Yoko
佐藤 瑤子

給食のシミュレーション科学 ～ おいしくするにはどうする? ～

Q まず始めに、ご出身、ご経歴などについて教えてください。

出身は兵庫県です。高校卒業まで兵庫県に住んでいました。大学は大阪市立大学生活科学部食物栄養科学科の出身です。食べること、料理を作ることが好きだったので、こちらを受験しました。大阪市立大学はお茶大と同じく管理栄養士養成施設でしたので、卒業後に管理栄養士の資格を取得しました。

大学に入学した頃には大学院進学は考えていなかったのですが、元々料理を作ることが好きだったこともあり、調理科学の勉強、研究をもっとしたいと思うようになりました。ところが当時、大阪市立大学では大学院で調理の研究をやっている研究室がなかったのです。それで、お茶大の調理学研究室にお世話になることにしました。実は、せっかく外の大学院を受験するなら東京に住んでみたいという気持ちもありました。

博士前期課程中にも就職か進学かと、すごく迷いましたが、研究が楽しく後期課程への進学を決意しました。博士後期課程在籍中には大学院副専攻のSHOKUIKUプログラムを履修してお茶の水女子大学専門食育士(上級)を取得しました。大学院では自分の研究に集中しがちですが、他分野の先生の講義などは、とても勉強になりましたね。修了した年にたまたまSHOKUIKUプログラムでのアソシエイトフェロー(AF)の募集があり、特任AFとして1年間お世話になった後、2015年4月に給食経営管理分野の助教として採用されました。

現職は管理栄養士が必須でしたし、前職のAFでは専門食育士の資格が役立ちました。特に管理栄養士を取得した頃には資格を役立てた仕事を希望していたわけではありません

でしたので、どこで資格が役に立つかわからないものだと実感しています。

Q 先生のご専門は何ですか？

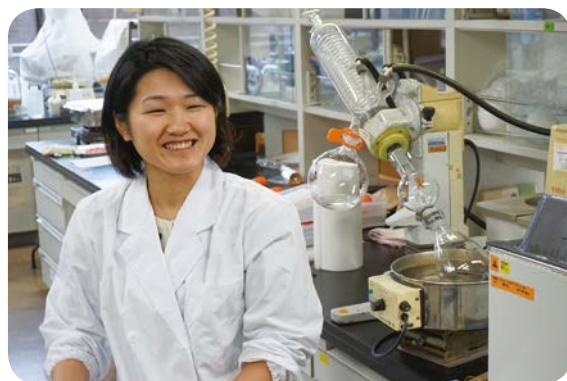
給食経営管理の中でも大量調理※に関わることを研究しています。(※筆者注:大量調理とは、レストランなどが個別の注文を受けて調理するのに対し、病院や福祉施設、学校、保育所などで一度に大量の食事を調理することを指す言葉) 特に、加熱調理中の食材の変化をシミュレーションする、という研究がメインです。大学院在籍中、指導教員である香西みどり先生から、調理中の食材の変化をシミュレーションする、という研究をやってみないか、とアドバイスいただいたことで取り組むようになりました。具体的には野菜を適度な硬さ、適度な味のしみ込み具合に仕上げるためにはどのくらい加熱すればよいか、どういう大きさに切ればよいかなどを明らかにするために、加熱調理中の硬さや味のしみ込みの程度がどのように変化するかなどをシミュレーションしています。膨大な計算も必要でしたが、計算に必要な数字を得るためには実験が必要でしたし、シミュレーションした後はシミュレーションの結果が妥当であるかどうかを確認するための実験をしなければなりません。今でも、机にへばりついているかと思えば、突然実験を始める、といった生活を続けています。博士課程在学中には、火を止めた後の余熱の利用が嗜好的観点からも省エネルギー的

観点からも有効であることを、シミュレーションを通して証明しました。学生時代には家庭で調理するレベルの量での検討がほとんどでしたが、その頃からシミュレーションという手法は給食施設などの大量調理で役に立つはずと考えていました。タイミングよく、給食分野の教員として採用されたことから、これまでのシミュレーションの手法を大量調理へ応用するための検討を始めているところです。

Q お茶大生へ向けてのメッセージをお願いします。

助教として学生さんと接するようになって、皆さんが色々な課題に積極的に取り組む姿勢を見ていると、私も見習わなければと思われれます。まだまだ未熟ですが皆さんの力に少しでもなりたいと思っていますので気軽に話しかけてくれると嬉しいです。学生時代には大学で積極的に勉強するのはもちろんですが、自分の興味のあることは何でも取り組んでほしいと思います。

文責: 飯田 薫子(大学院 人間文化創成科学研究科 自然応用科学系 准教授)



卒業生紹介

働くママの営業最前線 ～ チームで成果をあげる働きかた ～



Takahata Yuki 高畑 侑紀

株式会社パソナ
第8営業部 特別法人チーム
チーム長

2004年お茶の水女子大学理学部情報科学科卒業。同年(株)パソナ入社。コーディネーター職(内勤営業)を経て、2007年より現在に至るまで営業職を歩む。2010年営業部第1チーム長(課長職)。第一子誕生を経て2014年から現職。富山県出身。

キャリアママチームを率いて

人材派遣大手のパソナは女性活躍支援に積極的な企業として知られる。パソナグループの女性社員の割合は約6割、そのうち3割は子どもを持つママ社員だ。育児休暇後の復職率は100%だという。復帰後も女性が十分に能力を発揮できるよう、さまざまな仕組みが導入されているなかで、「キャリアママチーム」の存在が内外から注目を浴びている。全メンバーが未就学児を抱える母親で、かつ外を飛び回る最前線の営業部隊という、非常にチャレンジングな試みだからだ。

「育休復帰と同時にチーム長と聞いたときは、1秒間はびっくり、でも2秒目には『頑張ります!』と即答していました」と語る高畑さん。入社10年目の昨年4月、2代目のチーム長を引き継いだ。メンバーは10名。みな10年以上の勤務歴があり、管理職経験者というのもこのチームの特徴だ。

大手外資系企業を顧客に、月の売上目標が億を超える部署のマネジメントが、チーム最年少32歳の肩にかかっている。「正直、プレッシャーはあります。モデルチームともなれば失敗は許されませんから。でも、これまでいつも何とかなってきたし、やるという強い気持ちがあれば、必ず周りが協力してくれると信じています」。チームへの厚い信頼が高畑さんを支えている。

営業は天職

富山の県立高校からお茶大に進学した。「特に女子大志望という訳ではなかったの

ですが、在学中に、一人の女性として働き、生きていく自分というものを初めて意識するようになりました。同級生の自立した姿勢からも大きな刺激を受けました。

専門は理学部の情報科学。IT企業の目覚ましい躍進を目の当たりにして、将来性の広がりを感じ選んだが、学部卒業時に志望したのは、「人」に関わる企業での営業職だった。「人と接し、楽しませるのが好きな性格をいかせるのは絶対に営業職だと思い、文系総合職での就活をしました」。そんなとき、大学のテニスサークルの先輩からパソナのことを聞く。説明会に行ってみると、志望学生もパソナの社員も大半が女性で、皆、いきいきとしていた。「5年、10年後の働く自分のイメージがこれほど鮮明に思い描けた会社は他にはありませんでした」。

2004年パソナに入社。営業を支援する内勤職に配属され、3年後に晴れて営業職に。「早く外へ出たいとウズウズしていたので、やっときたチャンス!」と心のエンジンがかかった。以来、営業畑でひとつひとつノウハウを身に付け、実績を積み上げてきた。「誰かに必要とされることが嬉しい」から、オファーを断ったことは一度もない。派遣スタッフ向けパーティの司会を引き受け、「キャリアママチーム」についてレクチャーを頼まれれば他社に赴く。根っからのエンターテイナーだ。

理想は「食堂のおばちゃん」

2歳児を育てながら、限られた時間のなかで高いパフォーマンスをあげるために、高畑さんはITを徹底的に活用している。通勤電車

の中で電子版ニュースを読み、メールでチームと連絡事項を共有。外出先でも隙間の時間を利用して次々と案件を処理していく。残業ができない分、自宅のPCから会社のシステムにアクセスする権限も付与されている。「子どもの病気など、突発的な出来事にも対応できるのもありがたいですね」。

同時に、高畑さんは、直接顔を合わせて交わすコミュニケーションをととても大事にしている。独身時代、28歳で品川区担当の営業チーム長になり、メンバーを束ねる苦労を味わった。「話さなければ何も始まらない。最初の1年間は、ひとりでランチをとったのは2回だけ」。密なコミュニケーションを通じてメンバーひとりひとりとつながり、メンバー同士をつなげた。自然とチームがまとまり、結果もついてきた。当時の経験が今にきている。

中学生の頃から、薬剤師として働く母に「何でもよいから好きな仕事を見つけて、一生続けなさい」と励まされてきた。「働き続けるだけでなく、やるからには上を目指したい」と語る高畑さんの理想のスタイルは「食堂のおばちゃん」だ。誰からも親しまれ、頼りにされ、周りの人に元気を与えることで、自分も輝く存在であり続けたい。

文責：坪田 秀子(学長特命補佐)

写真：村田 美七海(文教育学部、写真部)

わたしのオフタイム

韓流ドラマ鑑賞で非日常の世界に浸ることもあれば、週末は、動物や自然が大好きな娘さんと、キャンプやバーベキューをおもいきり楽しむ。そろそろ趣味のテニスやスキーも再開するつもりだ。

訂正とお詫び

第243号「卒業生紹介」左から2列5行目「昭和女子大第一号の博士となった。」の記述は「昭和女子大学論文博士第7号の博士となった。」と訂正させていただきます。また、島田淳子名誉教授のお名前にも誤りがございました。関係者各位にお詫び申し上げます。

附属学校園からのお知らせ

附属小学校

SSS(スーパー食育スクール)



学校の畑での野菜栽培

附属小学校は、文科省より平成26年度スーパー食育スクール(SSS)の指定を受け、研究を進めてきました。研究テーマは「食に対して能動的な児童を育てるSHOKUIKUプログラムの構築」です。これは、日々の実践を行うだけでなく、学習によって子どもの意識や食行動がどう変容したかを、アンケート等の調査も行い、明らかにする研究でした。

食にかかわる学習は、これまでも創造活動を中心に、家庭科や社会などさまざまな教科の中で行ってきました。教科以外でも、東村山の郊外園でサツマイモや

大根などを収穫する活動や、小学校敷地内にある畑で、作物を育てる活動を行ってきました。今年度も、「食に対して能動的な」子どもを育てるために、各学年でさまざまな学習が展開されました。その中で、改めて認識することができたのは「体験する」ことの大切さです。

1年生は、1学期に「給食で出されるそら豆を自分たちでむく」体験をしました。そら豆は

独特の風味があり、小さい子にとっては苦手な食材です。そのそら豆を、自分たちでさやむきしたという体験から、どの子も少しでも食べようとし、中には甘いといってたくさん食べる子もいました。さらに、そら豆のさやむきから、ひらがなや数の学習、絵本「そら

まめくんのベッド」の読み聞かせなどに広がる学びが展開されました。体験を通して、食べ慣れないものであったり、苦手なものであったりしたそら豆を食べてみようとする姿や、そら豆に興味をもち、学びを進めていく姿が見られました。

3年生は、学校の畑で野菜を育てる学習をしました。自分たちで育てたい野菜をえらび、育てていく中で、本物の「農家の仕事」に学ぶことになりました。埼玉県鶴ヶ島市の協力を得て、16軒の農家に6月と10月の2回、農家に「弟子



そら豆のさやむき

附属校園PTA連絡委員会主催芸術鑑賞会 —若山社中による江戸の里神楽

附属校園では毎年秋に、PTA連絡委員会主催で講演会や音楽会等が開かれます。今年度は、芸術鑑賞会—江戸

の里神楽・江戸囃子—でした。各校園のPTA会員を対象とした催しですが、小学校の児童の一部も参加させていた

だきました。また、幼稚園からは保護者の方と一緒に参加した子どもたちも多くいました。

台詞がない江戸の里神楽が子どもたちに伝わるか、少し心配し

ながらの始まりでしたが、演者の巧みな仕草、情景をかき立てる音曲に、子どもたちはもちろん私たちも引き込まれて、あっという間の1時間半でした。伝統芸能として磨かれた技の確かさと、長く人々に愛され楽しまれたエンターテインメントの力を感じさせていただきました。

小学校では、子どもたちが篠笛や締太鼓等に触れ、演奏する機会を持っています。鑑賞したものを自分たちがやっていることに引きつけて感じ取れたのではないのでしょうか。後半には子



江戸寿獅子

附属学校園での出来事 (2015年1月～3月)

【いずみナーサリー】

1月

- 避難訓練 (火災)

2月

- 豆まき遊び
- クラス別保護者会
- 避難訓練 (抜き打ち・地震)
- 個人面談

【附属幼稚園】

1月

- 始業式
- 春を祝う会
- 誕生会
- クラス懇談会
- 親子体操の会
- 避難訓練 (4・5歳親子 起震車・煙ハウス体験)
- 遠足 上野動物園 (5歳)
- 親子で遊ぶ日 (3歳)

2月

- 豆まき
- 保護者対象学内講師講演会
- 年長児体力テスト (大学の調査協力)
- 親子で遊ぶ日 (5歳児)
- 2月・3月合同誕生会

3月

- 雛まつり
- お楽しみ会 (5歳)
- PTA総会: 全体保護者会
- 卒業式予行
- 卒業式・終業式

【附属小学校】

1月

- 始業式
- 茗鏡会ニューイヤークンサート
- 成人のつどい
- 留学生との交流会 (5年)
- 避難訓練

2月

- 委員会 (4年生見学)
- 公開研究会
- ジャガイモ植え (郊外園活動: 5年)

3月

- 授業参観、保護者総会、かがみ会総会
- 宿泊学習 (裏磐梯雪の学校: 6年)
- 校外学習 (各学年)
- 卒業式・修了式

3月

- 個人面談
- 親子であそぼう会
- 避難訓練 (散歩先抜き打ち・地震)

【附属中学校】

1月

- 冬休み終了
- 特別時間割期間・授業参観週間

2月

- 中学校入学検定 (一般・帰国)
- 附属高校入学検定 (3年自宅学習)
- 都内私立高校入試最多日 (3年自宅学習)
- 学校関係者評価委員会・学校評議員会
- 都立高校入試 (3年自宅学習)
- 期末テスト
- 避難訓練 (1・2年)
- 保護者会 (3年)

3月

- 音楽行事・歓送会
- 卒業式予行
- 第68回卒業式
- 終業式・保護者会 (1・2年)
- 春休み開始

【附属高校】

1月

- SGH海外研修事前視察 (タイ・バンコク)
- 3学期始業式
- 米国留学説明会 (米国大使館 領事部 + 米大在学中の卒業生: 2年)
- 学力テスト (1・2年)
- 大学入試センター試験 (3年)
- 合唱コンクール
- 卒業生の話を聞く会、保護者会 (1年)
- 保護者会 (2年)
- 3年生授業終講

2月

- 米国留学説明会 (米国大使館 領事部: 1年)
- 入学検定・合格発表

3月

- 新入生説明会
- 期末考査
- 農場実習 (ジャガイモの植付け: 1年)
- 答案返却・餅つき大会
- 卒業式予行・歓送会
- 卒業式
- 情報科 特別授業 Google "Mind the Gap" 参加
- 終業式
- 学年末休業

入り」をしました。この体験から子どもたちは、単に好き・嫌いだけでみていた野菜を作る側の立場で見つめ直すことができました。その結果、今まで食べたことのなかった野菜を口にする子が出たり、給食の野菜を残さず食べる子が増えたりするなど、意識の変化が見られました。

これらの実践から見えたことは、子どもにとって体験することが、食べてみようという動機付けにつながっていたということです。この「食べてみよう」という子どもの行動を日常化していくために、これからもさまざまな体験を通した学びをつくりたいと考えています。

そして、このような食にかかわるさまざまな学習を通して、子どもたちが食に対して興味をもち、日常から情報を取り込む意識がもてるようにできればと考えています。そして、新しい人やモノと出会い、学ぶことを通して、異なる他者を尊重する、異なる食文化を尊重する気持ちを育てていきたいと考えています。そして何より、食を楽しむ気持ちを育てていきたいと思っています。

江戸囃子

子どもたちが知っているお囃子も出てきて、楽しめたようです。また、子どもたちは獅子舞にもチャレンジしたことがあります。江戸獅子を見ていると、獅子の動きが猫に通じて、恐ろしげななかにもかわいらしさが感じられました。動き一つで恐ろしげにも、かわいらしくもなる獅子に、獅子舞の奥深さを感じました。

幼児からお年を召した方まで、皆が一緒に楽しく暖かなひとときを過ごさせていただきました。

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

女性研究者研究活動支援事業(連携型)平成26年度キックオフ・シン ～お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構の3機関

お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構(NIMS)は、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」に共同申請し、採択されました。

事業の開始にあたり、「工学系の女性研究者比率の向上」や「工学系女性比率向上の好循環モデルの構築」について考えるキックオフ・シンポジウムを2015年2月15日(日)に開催しました。



はじめに、お茶の水女子大学、芝浦工業大学、物質・材料研究機構による協定調印式が行われ、羽入佐和子学長の開催挨拶の後、川上伸昭氏(文部科学省 科学技術・学術政策局長)からご挨拶を頂戴しました。

その後、基調講演として國井秀子氏(芝浦工業大学 学長補佐・男女共同参画推進室長・大学院工学マネジメント研究科教授)

から理工系における「女性研究者・技術者の活躍に向けて」、また、原山優子氏(総合科学技術・イノベーション会議常勤議員)から「女性にとっての選択肢『工学系の研究者』とは?」と題してお話いただきました。

さらに、「工学系女性比率向上の好循環モデルの構築を目指して」をテーマとして、村山雅人氏(芝浦工業大学学長)、潮田資勝氏(物質・材料研究機構理事長)、羽入佐和子本学学長による鼎談が行われました。そして、地方自治体や企業など多様な立場から意見が取り交わされ、シンポジウムは盛会裏のうちに終了しました。



「OGと在校生との交流会 -face-to-faceで語ろう-」を開催しました

お茶の水女子大学主催による、OG・在校生・教職員のネットワーキング構築イベント「OGと在校生との交流会」が、2014年12月4日(木)に開催されました。このイベントの開催は今年度で3回目となります。当日は師走の冷たい雨にもかかわらず、26名のOGの方々と50名を超える学生・教職員が参加する盛会となりました。

今回お声をかけた卒業・修了生は、1976年度から2008年度に他大学を含む学部をご卒業されている有職の方々です。一方、在校生は、学部1年生から大学院生まで幅広い学年が出席し、フレンチシェフによる季節のカナッペやデザートに舌鼓を打ちながら、会場は大いに盛り上がりました。

交流会後のアンケートでは、学生からは「時間があっという間だった」「OGの方と話す大変貴重な機会だったので、来年もこのような機会があればぜひ参加し



たい」という満足度の高い回答が多数寄せられ、就職活動を含め先輩からのアドバイスを求める学生の多いことが感じられました。また、OGの方々からは、「まだ具体的な将来像の描けていない学生が多い中、どのような可能性や関心があるのかについてコーチング的に引き出した」「在校生の就職活動に関する悩みや迷いを聞いた」といったコメントが寄せられ、後輩の声に真摯に耳を傾け、支援を惜しまない卒業生の姿が浮かび上がりました。参加した理由については、在校生やOGの方ともに「前回も参加して大変よい会だったので」「毎年楽しみにしています」という回答も多く、主催側も当交流会の開催意義を改めて認識することができました。



ポジウムを開催しました が協力して、日本の「工学系女性研究者比率の向上」にチャレンジ!~



平成26年度学生表彰式を開催しました



2014年12月17日(水)に、平成26年度学生表彰式を開催しました。学生表彰は、学業・学術研究活動分野、課外活動分野、社会活動分野で特に顕著な業績を挙げ、かつ学界又は社会的に高い評価を受けた者、本学の名誉を著しく高めたと認められる者に対し、それを称え賞するものです。

平成26年度は成績優秀な学部4年生24名、研究において顕著な業績を挙げた大学院生1名、課外活動において功績を挙げた学生1名及び舞踊教育学コース学生一同、社会活動において功績を挙げた学生1名に対して、関係教職員臨席のもと、学長から表彰状と記念品が贈られました。

お茶の水女子大学理科教育復興支援 研修・意見交換会を開催しました

2015年1月13日(火)に、理科教育復興支援研修・意見交換会を開催しました。岩手県沿岸部の小中学校教員・副校長及び教育委員会指導主事・課長ら21名が参加し、ICT機器を授業に活用する方法や、小中学校を結ぶ電磁石の実験、地球分野の実験・教材などの研修を実施し、これまでの振り返りと、今後の発展的な理科教育復興支援活動につなげるための意見交換会が行われました。

参加者からは次のような意見をいただきました。(抜粋)

「どんどん積極的にお茶大と連携していきたいです。理科の教材開発の他、復興、5年後の東北について考えることができるいい機会でした。他校の実践事例を直接伺うことができたことや、教材を教えていただいたことが大変有意義でした。

支援がなくなっても自立していけるような支援というのがすごく大切だと思いました。私たちの思いをくみとり、寄りそった支援、ありがたいです。」



スマホ顕微鏡でウコの受精卵を観察

キャンパス点描

メディア報道記録

メディア報道記録 2014年度(抜粋)

※職名は掲載当時のものです。

【新聞】

- 2014年4月2日 毎日新聞
国際学力テスト：12年の国際学習到達度調査3位
日本の対策奏功、10年がかりで問題解決能力アップ
浜野隆准教授
- 2014年4月6日 日本経済新聞
アンケート回答 大学入試「改革」6割 学長アンケート意欲・英語を重視
羽入佐和子学長
- 2014年4月6日 日本経済新聞
【きょうのことば】大学入試改革 達成度テストも提言
羽入佐和子学長
- 2014年4月6日 読売新聞
よみうり堂本「あなへの歌」異文化越えて夫婦の絆
楊逸(ヤンイー)さん(卒業生 小笠原)
- 2014年4月7日 日本経済新聞
アンケート回答 学長アンケート 学び改革急ピッチ
羽入佐和子学長
- 2014年4月13日 読売新聞
探訪ラボ お茶の水女子大学理学部情報科学科
権尾研究室 生活にITのアイデア
権尾一郎教授
- 2014年4月13日 朝日新聞
【引きつり】展示を 姫路文学館・藤原館長が抱負
藤原正彦名誉教授
- 2014年4月17日 産経新聞
自分の周りだけにとらわれるな
黒田玲子さん(卒業生・東京理科大学教授)
- 2014年4月17日 朝日新聞
学力伸び格差縮めるには 全国調査の分析から
耳塚寛明副学長
- 2014年4月22日 日本経済新聞
服カタクロ 手触り感 布地撮影し拡張現実
権尾一郎教授
- 2014年4月23日 読売新聞
学力テスト「公表」2% 全区市町村教委 学校の
序列化懸念
耳塚寛明副学長
- 2014年4月25日 毎日新聞
キャンパス・大楽人「妄想娘、東大をめざす」を出
版した東大大学院生大石園さん
【原稿執筆】近藤秀香さん(在学生)
- 2014年4月28日 日本教育新聞社
災害用アンホールシステム 断水時、停電時に威力
を発揮 キャンパス内5カ所に計25基を設置
お茶の水女子大学 施設チーム
- 2014年4月29日 朝日新聞
春の教職 内外4159人が受章
五十嵐峰名名誉教授
大口勇次郎名誉教授
- 2014年4月30日 日本経済新聞
「一人よりも共同で生活したい」学生寮で自分磨き
仲間を刺激が糧/就職にも期待
羽入佐和子学長、望月由起准教授、岸かおりさん、
二宮まりさん、お茶大SCC
- 2014年4月30日 読売新聞
よみうり寸評
外山滋比古名誉教授
- 2014年4月30日 朝日新聞
春の教職、県内141人
矢部原英敏(元お茶の水女子大学事務局長)
- 2014年5月1日 朝日新聞
【記者有論】学力格差 頑張る学校の知恵共有を
耳塚寛明副学長
- 2014年5月10日 日本経済新聞社
宇宙で考えたこと 山崎直子さんに聞く 無重力も
の考え方 なぜか懐かしさも
山崎直子さん(附属高等学校卒業生 宇宙飛行士)
- 2014年5月15日 日本経済新聞
キャンパス発の一品 電子閲覧ランキング 2位
バグハンガー
お茶の水女子大学 大学内の売店で半年に700
個販売
お茶大グッズ・バッグハンガー
- 2014年5月19日 読売新聞
悩める女性へ…人生案内100年(5)変わる家族
【義父母と同居】悩んだ嫁
湯沢新彦名誉教授
- 2014年5月21日 毎日新聞
交流：タイの生徒16人、伝統の踊り披露 女子高で
一大塚
附属高等学校
- 2014年5月22日 日刊工業新聞
東京応化科技振興財団の「向井賞」 東京理科大
の黒田教授選出
黒田玲子さん(卒業生 東京理科大学教授)
- 2014年5月23日 毎日新聞
外国人入学：埼玉の専門学校が拒否
富高名誉教授
- 2014年5月30日 毎日新聞
キャンパスの「なにコレ!?」生協「ひとことカード」投
稿には手書きで返答
大学生協
- 2014年6月3日 毎日新聞
【論点】超高齢化社会の将来像「若い」を肯定的にみる
天野正子名誉教授名誉教授(東京家政学院大学教授)
- 2014年6月号 「地図中心」(日本地図センター
刊行)こちら院生室(32)
小林加奈さん 若山沙織さん
(大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程
ジェンダー社会科学専攻地理環境学コース)
三浦尚子さん(同博士後期課程ジェンダー学際研
究専攻ジェンダー論領域)
- 2014年9月4日 東京新聞
【まずは数、それから変革を】「卒」応募の名古屋大教授
森穂恵さん(卒業生 名古屋大学教授)
- 2014年9月4日 毎日新聞
街の本屋さん BOOK WATCHING 「思考のレシ
ビ」(羽入佐和子学長著、出版社：ティスカヴァー
トゥエンティワン)
羽入佐和子学長
- 2014年9月5日 日刊工業新聞
【科学技術・大学】探訪先端研究一塩基多型 脂質
代謝の働き興合に関与
食事で動脈硬化リスク低減
藤原葉子教授

- 2014年6月13日 東京新聞
わが子の今しつかり受け止めて 元幼稚園教諭が
エッセー集
宮里曉美さん(元附属幼稚園副園長 十文字学園
女子大学教授)
- 2014年6月14日 朝日新聞
「リケジョ」養成へ連携～SSH指定の埼玉や北関東
の女子校
千葉和義教授
- 2014年6月19日 日本経済新聞
WOMAN EXEPO TOKYO 2014 女性の起業
人の輪が力に
唐松奈津子さん(卒業生 スバルデザイン社長)
- 2014年6月27日 読売新聞
「リケジョ」100年
黒田チカ名誉教授
- 2014年6月30日 毎日新聞
【就活】キャンパスの生のその後/下
全部入生経験になれば 結局、大学院へ進学
近藤秀香さん
- 2014年7月9日 日刊工業新聞
お茶の水女子大発ベンチャー、台湾化粧品大手と
提携～欧米で事業化検討
室伏さき子名誉教授・寄附研究部門教授
- 2014年7月9日・10日 読売新聞
(アンケート回答)大学の学力 教育力向上の取り
組み(上・下)
お茶の水女子大学
【学ぶ育む】大学の学力 学部別卒業生の進路
●2014年7月18日 日経産業新聞
【書評】気になる2冊「思考のレシビ」
(羽入佐和子学長著、出版社：ティスカヴァー・トゥ
エンティワン)
羽入佐和子学長
- 2014年8月2日 日本経済新聞
【シニア記者がつくるこころのページ】老いがい 天野
正子さんに聞く
天野正子名誉教授(東京家政学院大学教授)
- 2014年8月3日 読売新聞
学童疎開空襲の絵日記 食料不足、不安ありありと
東京女子高等師範学校附属国民学校(附属小学校)
●2014年8月3日 読売新聞
語る 夏 政権に望む 女性登用緩めず進めて
横田晋子さん(卒業生 コラボラボ社長)
- 2014年8月5日 朝日新聞
ベネッセ、学力調査活札 情報管理「安全を確認」
耳塚寛明副学長
- 2014年8月6日 日刊工業新聞
はたらくこといきること 理工系女性の想い
大島範子さん(卒業生 東邦大学名誉教授)
- 2014年8月9日 毎日新聞
ドキュメンタリー上映会：沼津の人に震災の教訓を
「あの街に桜が咲けば」16日に
泉有香さん(在学生、文芸学部4年)
- 2014年8月12日、8月15日 西日本新聞
こにちは! あかちゃん第20部 産後クライシス
を乗り越える<2><4>
菅原ますみ教授
- 2014年8月16日 毎日新聞
【特集】女子大生誕生の日「これからの日本をリード
する女性の力」
座談会 いま見抜く生活目録
羽入佐和子学長
- 2014年8月17日 SANKEI EXPRESS Campus
新聞
レシピや食品開発 企業ともコラボ 学生の食育
普及へ「発信力」高める
大学公認サークル「Ochasc」副代表 廣瀬悠さん
- 2014年8月20日 朝日新聞
(アンケート回答)意欲を測る入試、大学7「困
難」 朝日新聞社・河合塾調査
- 2014年8月22日 朝日新聞
ひらく 日本の大学 学生の生活把握、84% 朝
日新聞・河合塾共同調査(アンケート回答)
- 2014年8月27日 日本経済新聞
(記者手帳)「陳より始めよ」
羽入佐和子学長
- 2014年8月28日 埼玉新聞
「リケジョ」72人が体験学習 SSH指定の6女子高
と2大学が連携
千葉和義教授
- 2014年8月28日 産経新聞
【広告掲載】残暑お見舞い申し上げます。今でも応
援しています。
～東日本復興応援キャンペーン～ お茶の水女子大学
●2014年8月29日 読売新聞
【論点】超高齢化社会の将来像「若い」を肯定的にみる
天野正子名誉教授名誉教授(東京家政学院大学教授)
- 2014年8月号 「地図中心」(日本地図センター
刊行)こちら院生室(32)
小林加奈さん 若山沙織さん
(大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程
ジェンダー社会科学専攻地理環境学コース)
三浦尚子さん(同博士後期課程ジェンダー学際研
究専攻ジェンダー論領域)
- 2014年9月4日 東京新聞
【まずは数、それから変革を】「卒」応募の名古屋大教授
森穂恵さん(卒業生 名古屋大学教授)
- 2014年9月4日 毎日新聞
街の本屋さん BOOK WATCHING 「思考のレシ
ビ」(羽入佐和子学長著、出版社：ティスカヴァー
トゥエンティワン)
羽入佐和子学長
- 2014年9月5日 日刊工業新聞
【科学技術・大学】探訪先端研究一塩基多型 脂質
代謝の働き興合に関与
食事で動脈硬化リスク低減
藤原葉子教授

- 2014年9月8日 日刊工業新聞
【主張】女性研究者の国際交流支援
室伏さき子名誉教授・寄附研究部門教授
- 2014年9月13日 東京新聞
【土曜訪問】ロングセラー「思考の生理学」の著者
外山滋比古さん
- 2014年9月15日 毎日新聞
くらしナビ 学ぶ「規律ある生活 学力に好影響
全国学テ正答率と家庭、授業の関係分析」
浜野隆准教授
- 2014年9月21日 朝日新聞
DVで避難の女性への郵便物、宅宅へ誤送付 埼玉
りそ娘
戒能民江名誉教授
- 2014年9月27日 日本経済新聞
キャリアづくり 女子大が起点に
望月由起准教授、吉田修子さん・福島悠菜さん(生
活科学部在学生)
- 2014年9月30日・10月1日 朝日新聞、産経新聞、
東京新聞、読売新聞、日本経済新聞
お茶大に「認定こども園」 文京区16年開設
羽入佐和子学長
- 2014年10月3日 郵政新報
認定こども園移行/私立幼稚園支援に焦点/都議
会厚生・文教が連合審査
羽入佐和子学長
- 2014年10月7日 朝日新聞
「若くして才能」「地道に書く人」 岩橋邦枝さんお
別れの会、作家ら悼む
岩橋邦枝さん(卒業生 作家)
- 2014年10月16日 日刊工業新聞
宇宙への夢を叶えたい 宇宙飛行士の山崎さん
山崎直子さん(附属高校卒業生 宇宙飛行士)
- 2014年10月20日 朝日新聞
【ニュースの扉】楊逸さんと歩く香港のデモ
楊逸さん(卒業生 小説家)
- 2014年10月23日 日刊工業新聞
学長に室伏氏 お茶の水女子大
室伏さき子名誉教授
- 2014年10月28日 朝日新聞
【リレーおびにおん】女と女(2) 嫉妬が連帯に変わる時
柴田ふみさん(卒業生 漫画家・エッセイスト)
- 2014年10月29日 日刊工業新聞
はたらくこといきること 理工系女性の想い 園
を越えて「リケジョ」支援
橋本裕子さん(卒業生 千葉商科大学准教授)
- 2014年10月29日 YOMIURI ON LINE
お茶の水大発スイーツ 学生と不二家共同開発
大学公認サークル「Ochasc」、金成はるなさん(在
学生 生活科学部食物栄養学3年)
- 2014年10月30日 毎日小學生新聞
規則正しい生活習慣が学力に好影響 全国学力テス
ト結果発表
浜野隆准教授
- 2014年11月2日 産経新聞
27年度入試 私大3割、国立の3大学初導入
ネット出願「もう普通」
- 2014年11月2日 読売新聞
【語る】消費税増税問題 子育て支援拡充 財源に
大日向雅美さん(卒業生 恵泉学園大学教授)
- 2014年11月3日 朝日新聞出版 AERA
試験前に相談 答案修正も評価 大学受験、一発
勝負から「育てる入試へ」
耳塚寛明副学長 養成英樹教授
- 2014年11月11日 読売新聞
【文化文芸】川上弘美さん新作「水声」 姉弟・父母
ひそかな愛の形
川上弘美さん(卒業生 作家)
- 2014年11月17日 毎日新聞
【悼む】岩橋邦枝さん 作家 文芸誌で素直な発露
岩橋邦枝さん(卒業生 作家)
- 2014年11月18日 奈良新聞
理系女子の育成連一奈大女とお茶大女
- 2014年11月18日 東京新聞
リケジョ育成女子大タッグ 奈良 お茶の水 大
学院全国初の学系系
- 2014年11月18日 日本経済新聞
理系女子の育成連一奈大女とお茶大女
お茶の水と奈良女子大
●2014年11月18日 毎日新聞
リケジョでお茶の水女子大と奈良女子大タッグ
16年度から大学院共同運営
- 2014年11月20日 日刊工業新聞
リケジョ育成へ新専攻 お茶の水女子大学
- 2014年11月26日 朝日新聞
【ニュースQ3】男子が女子大に出願、不受理で訴訟へ
- 2014年12月6日 産経新聞
【全時代】変わる大学 大学トップに聞く! グ
ローバル化する未来に向けて、大学が変わる
羽入佐和子学長
- 2014年12月9日 毎日新聞
くらしナビ 学ぶ@大学 ウチの教授 東海大・乾
潮子さん
乾潮子さん(大学院卒業生 東海大学教授)
- 2014年12月10日 朝日新聞
事例紹介 積極的に 耳塚寛明 お茶の水女子大
副学長(教育社会学)の話
耳塚寛明副学長
- 2014年12月10日 朝日新聞
学校別成績、公表手探り 実施市区町村6% 校
長間が難色、議論5カ月
耳塚寛明副学長
- 2014年12月13日 読売新聞
【学ぶ育む】学生と企業 共同で商品開発
大学公認サークル「Ochasc」 金成はるなさん(在
学生 生活科学部食物栄養学3年)

- 2014年12月15日 日本経済新聞
理工系教育支援企画テクノナレッジジャパン
第7回企業に研究開発してほしい未来の夢イテ
ア・コンテスト
■大日本印刷「未来の本のカタチ」最優秀賞
Team ボルボックス(在学生 生活科学部人間・環境
科学科)
- 2014年12月15日 毎日新聞
木村詩穂さん(4年) 沙魚川通さん(1年) 小川
由夏さん(3年) 榊美玖莉さん(2年) 本城のぞみ
さん(2年)
■特別賞 Rikejo 賞
Hygienic(在学生 生活科学部人間・環境科学科)
河内あゆみさん(4年) 服部佑香さん(3年) 喜多
祐奈さん(1年) 牛房奈菜子さん(1年)
- 2014年12月17日 朝日新聞
受験の女神【美談】女子大生アイドル「5W1H」が受験
を手助け
小鳥井あおいさん(在学生 生活科学部食物栄養学
科1年)
- 2014年12月19日 朝日新聞
【オビエーション】STAPの教訓 多額研究費は逆に人
材育てぬ
郷通子氏(前学長)
- 2014年12月19日 朝日新聞
【新論】STAPの教訓
郷通子氏(前学長)
- 2014年12月21日 毎日新聞
【さまよう入試】一点刻みを越えて(下)
耳塚寛明副学長
- 2014年12月30日 毎日新聞
くらしナビ 学ぶ: @大学 情報発信基地を目指す
学内図書館、本との出会い作り工夫
鹿野景子副学長
- 2015年1月3日 毎日新聞
くらしナビ ライフスタイル産後、議会出席に匿名非難
申張院准教授
- 2015年1月6日 読売新聞
女子大初の工学系大学院 お茶の水・奈良が共同で
- 2015年1月10日 読売新聞
平成26年人権シンポジウム 外国人と人権
宮島高名誉教授
- 2015年1月12日 毎日新聞
【@大学】140周年記念キャラ「ちせちゃん」現役の
「ほりちゃん」とPR
お茶の水女子大1期生、青山千世モデルに
五十嵐志保美さん(附属図書館職員)
- 2015年1月14日 東京新聞
三木英登子さんを悼む
宮田仁名誉教授
- 2015年1月18日 日本経済新聞
油の摂取 偏りは禁物 脂質、食品ごと特徴
小林哲幸教授
- 2015年1月19日 朝日新聞出版 AERA 15.1.26号
大特集 ランキングで見る 大学力・2015 覚
悟とスキル育てます 女子大のリーダー育成力
お茶大女性ビジネスリーダー育成成熟：微音塾
- 2015年1月19日 日刊工業新聞
【モブく】NEXT STAGE】周囲ではなく自分を
変える 女性と社会つながる授乳服
光畑由佳さん(卒業生 モーハブ社長)
- 2015年1月19日 日本経済新聞
【半歩遅れの読書術】旅の道しるべ 文明の攻防が
かきたるロマン
黒田玲子さん(卒業生 東京理科大学教授)
- 2015年1月20日 読売新聞
【好き】こそ起業の一步
鹿住倫世さん(卒業生 専修大学商学部教授)
- 2015年1月20日 日本経済新聞
【文芸探偵団】増える保育園 安心させる？
浜口順子教授
- 2015年1月25日 朝日新聞
音が見えた! 科学つごい! 宮古でニュートン
スクール
- 2015年1月27日 朝日新聞
【リレーおびにおん】捨ててこそ: 3 知的メタボを
脱出せよ
外山滋比古名誉教授
- 2015年1月29日 毎日新聞
どーする? 災害時の非常食 質の向上を考えるシンポ
須藤紀子准教授
- 2015年1月29日 日本経済新聞
女子大生自衛、貴賓にワンルーム、池袋に建設
セレナーゴ
元岡展久教授
- 2015年2月1日 読売新聞
第66回読売文学賞に6氏 小説賞「水声」(文芸
春秋) きらめく家族の時間
川上弘美さん(卒業生 作家)
- 2015年2月3日 読売新聞
【文化文芸】読売文学賞のひとびと(1) 小説賞「水声」
川上弘美さん「姉と弟」恋人のような愛
川上弘美さん(卒業生 作家)
- 2015年2月14日 読売新聞、朝日新聞、日本経
済新聞 毎日新聞
朝日新聞で女性活躍 板東氏ら新委員決定 最多
13人に
羽入佐和子学長
- 2015年2月15日 日本経済新聞
【目録に考える】教育格差が未来を奪う やまめ機
会不平等の連鎖
耳塚寛明副学長
- 2015年2月20日 日刊工業新聞
千葉銀が学生版ビジネス案表彰 お茶の水女子大
グループに優秀賞
佐藤歩美さん(在学生 生活科学部人間生活学
科3年)
- 2015年2月23日 朝日新聞出版 AERA
格差と貧困、日本の現実 アベノミクスは何をもたら
すのか
耳塚寛明副学長

研究表彰等受賞者一覧 2014年度(抜粋)

- 2015年2月23日 日刊工業新聞
【著者登場】「管見妄語—とんでもない奴—」弱者を守る精神貴く
藤原正彦名誉教授
- 2015年2月27日 読売新聞
変わる大学入試 現場編(8) 先進的な改革戸惑いも
耳塚寛明副学長

【TV】

- 2014年4月14日 NHK Eテレ「プレイクスルー」
File2 広告プランナー「ヒロ」 難病ALSとの闘い
藤田正裕さん(附属中学校卒業生)
- 2014年4月30日 NHK[NHKニュース おはよう日本]
新たなおしゃれ 広かりの最新線
顔内ありさ教諭
- 2014年6月8日 TBS「未来の起源」
中嶋香奈子さん(在学生 大学院人間文化創成科学
研究科博士後期課程ライフサイエンス専攻3年)
- 2014年7月4日 NHK[NHKニュース おはよう日本]
DV 性暴力 被災地からの相談 他地域の2倍近く
戒民江名誉教授
- 2014年7月6日 NHK[NHKニュース おはよう日本]
(特集) 急増するストーカー・DV 被害者をどう守る
戒民江名誉教授
- 2014年7月7日 NHK[NHKニュース おはよう日本]
深刻化する性暴力被害 被害者の声は
戒民江名誉教授
- 2014年7月18日 テレビ東京「ワールドビジネスサ
テライト」
靴型測定装置の紹介
大田裕治教授
- 2014年7月31日 Eテレ「オトナのトビラTV」
文教育学部言語文化学科2年 三浦夏乃さん、お
茶大 SCC
- 2014年9月29日・30日
NHK総合「首都圏ニュース 845」
Tokyo MX News
フジテレビ[FNNスピーク]
お茶の水女子大、国立大として初の認定こども園運営へ
羽入佐和子学長
- 2014年11月15日 NHK総合「マサカメTV」
風呂が100倍気持ちよくなる!
大瀧雅寛教授
- 2014年11月26日 テレビ東京「ワールドビジネス
サテライト」
トレンドたまたご「徘徊をつぶやくドア」
の場やすし学部研究員
- 2015年2月6日 NHK
首都圏ネットワーク「いってみよう いってみたい〜文
京区〜」
歴史資料館「二十遊嬉之図(複製)」
- 2015年2月12日 若手めんこいテレビ
お茶の水女子大学が出前授業
- 2015年3月1日
BS12/3月2日 サンテレビジョン/3月8日
日経CNBC
「賢者の選択」
羽入佐和子学長、鹿野泉子副学長、森いつみ図書・
情報課課長、卒業生、在学生

(1) 教職員

- 2013年度(第8回)日本科学史学会
日本科学史学会論文賞
リーダーシップ養成教育研究センター
宝月理恵特任講師
- 公益財団法人日本女性学習財団
2013年度日本女性学習財団賞奨励賞
大学院人間文化創成科学研究科
小川真理子リサーチフェロー
- 日本栄養・食糧学会 学会賞
大学院人間文化創成科学研究科
近藤和雄教授
- 日本ビジネス実務学会
第33回全国大会発表の部学会奨励賞
リーダーシップ養成教育研究センター
井上奈美子特任アソシエイトフェロー
- 総務省公募 戦略的情報通信研究開発推進事業
(SCOPE)
平成26年度研究開発課題に採択(共同提案)
大学院人間文化創成科学研究科
小口正人教授
- 日本臨床栄養学会
2014年度優秀論文賞
元生活環境教育研究センター
菅根保子特任助教
- AAEC ED-MEDIA 2014
(World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia
and Telecommunications 2014, Tampere, Finland.)
大学院人間文化創成科学研究科
刑部育子准教授
- 日本災害食学会
優秀賞
大学院人間文化創成科学研究科
須藤紀子准教授
- 日本物理学会
第9回領域11若手奨励賞
理学部 日本学術振興会特別研究員(PD)
泉田勇輝さん

(2) 学生

- 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 2014年度
「未踏IT人材発掘・育成事業」に採択
理学部情報科学科4年 笹川真奈さん
- 日本人口学会第66回大会
日本人口学会・優秀論文賞
大学院人間文化創成科学研究科博士後期
課程・国際短期大学准教授
寺村絵里子さん

- お茶の水女子大学とパーキエ・ブッパタル大学
(ドイツ)との共同学位を授与
大学院人間文化創成科学研究科博士後期
課程理学専攻 米山京子さん
- 日本経済新聞主催「企業に研究開発してほしい未
来の夢」アイデア・コンテスト
(要称: テクノルネサンス・ジャパン)
大日本印刷「未来の本のカタチ」最優秀賞
生活科学部人間・環境科学科
木村詩穂さん(4年)・小川由夏さん(3
年)・捧美玖莉さん(2年)・本城のぞみさん
(2年)・沙魚川運さん(1年)
- 日本経済新聞主催「企業に研究開発してほしい未
来の夢」アイデア・コンテスト(要称: テクノルネサンス・
ジャパン)
特別賞 Rikejo 賞
生活科学部人間・環境科学科
河内あゆさん(4年)・服部佑香さん(3年)・
喜多祐奈さん(1年)・牛房奈菜子さん(1年)
- (株)くるなび・東京地下鉄株式会社「Let's
Enjoy TOKYO」
第6回 学園祭グランプリ 学園祭グランプリ2位
[第65回微音祭]実行委員会
小林梨恵さん
- 日本臨床栄養学会
2014年度若手奨励賞
大学院人間文化創成科学研究科博士後期
課程ライフサイエンス専攻1年
田島諒子さん(指導教員: 飯田薫子准教授)
- 日本臨床栄養学会
2014年度 若手奨励賞
大学院人間文化創成科学研究科前期課程
ライフサイエンス専攻1年 柳本彩さん
(指導教員: 市育代講師、藤原葉子教授)
- 第6回 日本質的心理学会賞
国際60コンテア奨励賞
生活科学部 学部教育研究協力員
山口慶子さん(指導教員: 岩壁茂准教授)
- 第8回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
ベストポスター賞
大学院人間文化創成科学研究科博士後期課
程理学専攻 ナジファ・ファケルヤルさん
- 第21回日本未病システム学会学術総会
優秀演題賞
大学院人間文化創成科学研究科博士前期
課程ライフサイエンス専攻1年
新井英里さん、田中未央里さん
(指導教員: 鈴木恵美子教授、近藤和雄教授)

- インターネットコンファレンスIC2014
学生奨励賞
大学院人間文化創成科学研究科博士前期
課程理学専攻2年 早川愛さん
- 第12回日本機能性食品医薬用学会総会
優秀ポスター賞
生活科学部食物栄養学科4年
岩島知未さん(指導教員: 近藤和雄教授)
- 第60回マトリックス研究会大会
Young Investigator Award
大学院人間文化創成科学研究科博士前期
課程ライフサイエンス専攻2年
橋本恵さん
- 第27回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)
大学創作コンクール部門 特別賞
文教育学部芸術・表現行動学科舞踊教育
学コース(グループ)
- アナタ・ボルグ女性と技術研究所(Anita Borg
Institute for Women and Technology)
2014年度 Google アニタ・ボルグ記念奨学金
アジア太平洋(APAC)奨学金受賞
理学部情報科学科4年 笹川真奈さん
- IEEE Instrumentation & Measurement
Society (IM-09) Japan Chapter
2014 IEEE IM Japan Chapter Student
Award 受賞
大学院人間文化創成科学研究科博士後期
課程ライフサイエンス専攻1年
安在絵美さん
- 国際学術会議 第6回 International Conference
on Phospholipase A2 and Lipid Mediators
(PLM2015) Best Poster Award
大学院人間文化創成科学研究科博士後期
課程ライフサイエンス専攻3年
島本知英さん
- 文部科学省 第4回サイエンス・インカレ
口頭発表「生物系」分野において 優秀者(1位)・独
立行政法人科学技術振興機構理事賞
理学部生物学科4年 田中奈穂美さん

(3) 本学出身者

- 社団法人 電子情報通信学会モバイルネットワーク
とアプリケーション(MoNA)研究会
若手研究奨励賞
大学院人間文化創成科学研究科博士前期
課程理学専攻情報科学コース修了
- 第66回読売文学賞
小説賞「水声」(文芸春秋)
川上弘美さん(理学部生物学科卒業)

主要行事予定 2015年度

4月 1日	TOEFL ITP全学テスト 新入生オリエンテーション(〜3日)	9月 11日	博士後期課程9月入試合格発表	11月 30日	4学期授業開始
4月 4日	入学式	9月 30日	9月卒業式	12月 5日	推薦入試等2次試験日(〜6日)
4月 5日	新入生セミナー(〜6日)		夏期休業終了	12月 17日	推薦入試等2次試験合格発表
4月 6日	新入生オリエンテーション	10月 1日	10月入学式	12月 27日	冬期休業開始
4月 7日	1学期・前期授業開始		3学期・後学期授業開始		
4月 18日	大学院オープンキャンパス		AO入試1次合格発表		
4月 29日	通常授業開講	10月 3日	文教育学部・生活科学部編入学1次試験		
5月 13日	名誉教授懇談会	10月 12日	通常授業開講		
5月 31日	開学記念日	10月 14日	文教育学部・生活科学部編入学1次試験合格発表		
6月 6日	2学期授業開始	10月 17日	AO入試2次試験日(〜18日)		
6月 13日	高校教員等向けオープンキャンパス	10月 22日	AO入試2次試験合格発表		
6月 24日	理学部・生活科学部(人間・環境科学科) 編入学試験(〜25日)	10月 28日	文教育学部・生活科学部編入学2次試験		
7月 2日	理学部・生活科学部(人間・環境科学科) 編入学試験合格発表	11月 3日	通常授業開講		
7月 18日	学部オープンキャンパス(〜20日)	11月 5日	文教育学部・生活科学部編入学2次試験合格発表 TOEFL ITP全学テスト(休講)		
8月 4日	夏期休業開始	11月 7日	微音祭(〜8日)		
8月 12日	夏季一斉休業(〜14日)	11月 18日	推薦入試等1次合格発表		
8月 20日	博士前期課程8月入試(〜21日)	11月 20日	奨学金授与式 永年勤続表彰式		
8月 28日	博士前期課程8月入試合格発表	11月 23日	通常授業開講		
9月 3日	博士後期課程9月入試	11月 29日	創立記念日 創立140周年記念式典		

研究表彰等受賞者一覧 / イベントカレンダー



平成26年度卒業式

お茶の水女子大学学报 第244号

▽発行日:2015年4月4日

▽発行:国立大学法人お茶の水女子大学

東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail:info@cc.ocha.ac.jp

URL :http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。